

下郷町青少年育成町民会議だより

青少年の主張発表、青少年健全育成作品コンクール、世代間交流グラウンド・ゴルフ大会

●編集・発行

下郷町青少年育成町民会議
(町教育委員会事務局内)
〒969-5345

福島県南会津郡下郷町大字塩生字大石 1000
TEL.0241-69-1168 FAX.0241-69-1167

第30回下郷町青少年の主張発表者

小学生の部

No	氏名	学校名	学年	題名
1	酒井 柚葉	旭田	5年	書道が教えてくれたこと
2	星 葵	江川	5年	笑顔の力
3	杉本 浩夢	楢原	5年	ぼくの夢
4	湯田 愛加	旭田	6年	大切な動物の命
5	星 翔太	江川	6年	祖母のおにぎり
6	弓田 明佳音	楢原	6年	たくさんの方々への感謝

中学生の部

No	氏名	学年	題名
1	渡部 健人	1年	「よさこい」を始めて
2	小山 優奈	1年	大人へ近づくとということ
3	浅井 竜哉	2年	友情の意味
4	大竹 梨奈	2年	大好きな家族
5	星 颯汰	3年	後悔するということ
6	星 ひかり	3年	伝えるということ



6月27日(金)下郷ふれあいセンターにおいて、第30回下郷町青少年の主張発表及び青少年健全育成作品コンクール表彰式が開催されました。町内小学校4年生以上の児童及び中学生約290名が参加しました。各学校の代表者12名が、堂々と自分の主張を発表しました。人前で話すこと、また伝えることの難しさと楽しさを経験する良い機会となったのではないのでしょうか。

また、青少年健全育成作品コンクール(ポスターの部・標語の部)においても、どれも素晴らしい作品で審査も困難を極めました。入賞作品については次頁に掲載しています。主張発表終了後、入賞者全員に賞状と盾が授与されました。

※今号3頁から中学生、次号にて小学生の主張発表内容を掲載いたします。

町青少年の主張発表・青少年健全育成作品コンクール表彰式

青少年健全育成世代間交流グラウンド・ゴルフ大会

7月12日(土)大川ふるさと公園において、青少年健全育成世代間交流グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。開会式では中妻あやめチームの佐藤華帆さん(旭田小3年)が元氣いっぱい選手宣誓を行いました。大会には15チーム・約98名が参加しました。当日は台風一過の晴天に恵まれ、小学生からお年寄りまで、世代を越えて楽しく交流することができました。

成績は次のとおりです。

【団体の部】

優勝 刈林C

準優勝 弥五島

3位 落合B

【個人の部】

○小学生の部

優勝 五十嵐奈々(田代A)

準優勝 小沼千雛(弥五島)

3位 稲本雅響(刈林D)

○中学生の部

優勝 大竹玖実(刈林A)

準優勝 大竹紗梨奈(刈林A)

3位 小澤 拓生(落合A)

○一般の部

優勝 佐藤一男(刈林C)

準優勝 五十嵐 傳(田代A)

3位 植村 のぶ子(弥五島)

○高齢者の部

優勝 星吏(落合A)

準優勝 星宏(落合B)

3位 五十嵐栄子(田代A)

【ホールインワン賞】

大竹豊美 稲本和博 小椋美喜子

湯田吉光 玉川貞子 星吏 佐藤義

広 星宏 若杉嘉信 星長光 阿部

マツ子 五十嵐栄子 五十嵐傳

五十嵐正夫 渡部葵 渡部道夫



選手宣誓をした中妻あやめチーム佐藤華帆さん

下郷ふるさと祭り宵夜祭における巡回補導

7月26日(土)に大川ふるさと公園で開催されたふるさと祭り宵夜祭において、町民会議補導部会事業の一環として、南会津警察署や少年補導員の方々と合同で、会場内外の巡回補導を実施しました。

青少年健全育成作品コンクール入賞者

*標語の部 (小学校の部 5年生)

賞	氏名・学校	内 容
最優秀賞 1点	ゆだ とうと 湯田 悠斗 旭 田	ごめんなさい 素直に言える 素敵な心
優秀賞 2点	すずき りこ 鈴木 理子 江 川	友達のよいところ いっぱい見つけ いっぱいほめよう
	みやかわ かず 宮川 和磨 旭 田	温かい みんなの笑顔 宝物
佳 作 5点	いちやなぎ れお 一柳 恰央 旭 田	助け合い 笑顔の花を 咲かせよう
	おおたけ れな 大竹 玲奈 檜 原	笑顔はね みんな元気に なるまほう
	ほし ぼく 星 遠樹 江 川	忘れない どこでもだれでも あいさつを
	ほし まゆこ 星 真悠子 檜 原	あいさつを みんなですれば 笑顔咲く
	むらい はるか 室井 遥花 檜 原	うれしいな 幸せいっぱい あいさつで

*ポスターの部 (小学校の部 6年生)

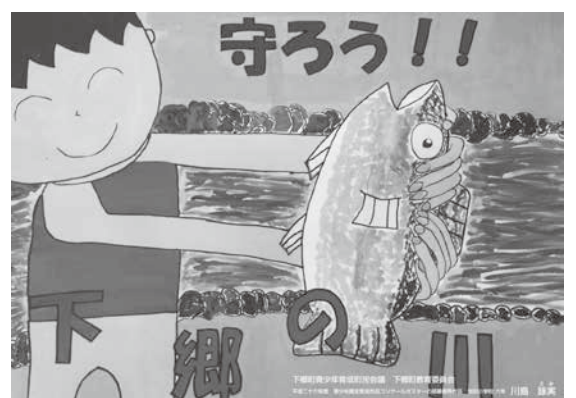
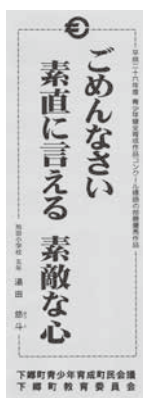
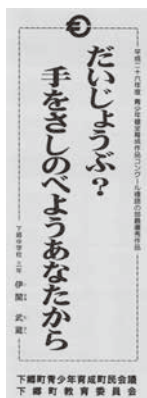
賞	氏名・学校	内 容
最優秀賞 1点	かわしま てるみ 川島 詠実 旭 田	守ろう!! 下郷の川
優秀賞 2点	おやま もへ 小山 萌 江 川	いじめはね 見ている人も重い罪
	ゆだ まなか 湯田 愛加 旭 田	最後に残るものは… 本当にたいせつなものは?
佳 作 5点	いがらし なな 五十嵐 菜々 江 川	一声かけよう 手をかそう 勇気をだして
	たまかわ のぞみ 玉川のぞみ 江 川	話をしよう 声をかけよう みんな友だち
	ほし ゆうた 星 裕太 旭 田	そのごみ 誰が捨てるの?
	むらい しゅんすけ 室井 駿佑 旭 田	いじめの「サイン」出ますよ その一声が救いの手
	ゆだ あいり 湯田 愛里 檜 原	みんなとのふれあいを大切に!

*標語の部 (中学校の部)

賞	氏名・学年	内 容
最優秀賞 1点	いせき むさし 伊関 武蔵 3	だいじょうぶ? 手をさしのべよう あなたから
優秀賞 2点	いがらし たかのり 五十嵐 隆徳 3	あいさつは 僕とあなたを つなげます
	さかい みゆう 酒井 美柚 2	思いやり 小さなことから 一歩ずつ
佳 作 4点	いがらし ことし 五十嵐 知士 3	始めよう 一日一善 今すぐに
	たまかわ なつみ 玉川 夏美 3	たすけあい 笑顔の花が 咲きほこる
	むらい ゆき 室井 結貴 3	あいさつは 心をつなぐ 第一歩
	ほし りりあ 星 璃々愛 2	さしだす手 その手で笑顔を 広げよう

*ポスターの部 (中学校の部)

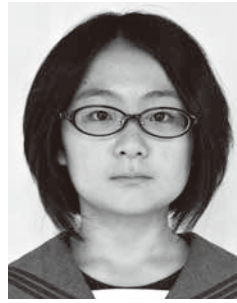
賞	氏名・学年	内 容
最優秀賞 1点	わたなべ みわこ 渡部 美和子 3	万引きは犯罪です
優秀賞 2点	なかむら ゆうさく 中村 優作 3	泣くのは君
	ほし そうた 星 颯汰 3	水を大切に!
佳 作 4点	いがらし ことし 五十嵐 知士 3	タバコは 20 歳から
	わたなべ ゆうたろう 渡部 裕太郎 3	負の連鎖は続けない
	おおたけ さりな 大竹 紗梨奈 2	NOT 喫煙
	ほし りりあ 星 璃々愛 2	大切な自然



青少年の主張発表 中学生の部

大人へ近づくと ということ

下郷中学校 1年
小山 優奈



中学生になって、また一歩大人へ近づきました。私は、今、大人になっていくことが、とても不安です。「これから先、大丈夫かなあ。」そんなことばかり考えてしまいます。

小学生生活は六年間でした。私は、「大人になるには、まだまだ長いなあ。」と思っていました。でも、中学生になったら、大人までもう少しだと思ようになりました。中学・高校、それぞれ三年間しかないのです。たぶんあつという間だと思います。そう考えると、これから先、どうしていけばいいのかと悩むことが多く

なつたのです。

私の将来の夢は、カフェ店に就職することです。カフェ店に入った時、「ゆつくりできていいなあ。」と思つたのがきっかけでした。

カフェ店に就職して、ゆつくりした人達が、ゆつくりできるようなカフェ店にしたいと思いました。就職するには、しっかりと勉強し、専門学校などに進学しなければなりません。

でも、私は、要領が悪く、思うように行動できません。「もつと要領良くやらなきゃ、行動をはやくしなきゃ、もつと勉強ができるようにならなきゃ。」そう思う日がとても多いです。直そうとしているのに直せなくて、「このままでは本当にダメな人間になってしまう。」そう思っ

てしまいがちでした。

小学校三年生まで、私は、「大人つていいな。」と思つていました。宿題もない。ゆつくりテレビを見ることもできる。大人がうらやましく感じられました。ところが、学年が進むにつれ、「大人つて、とっても大変で、毎日毎日忙しいんだ。」と分かるようになってきました。

その頃から、私はこのままではダメだと思うようになってきたのです。だから、「もつとこうした方がいいんじゃないか。」とか、「こうしたらもつと良くなるんじゃないか。」と考えるようになりました。自分が変わらなければならぬと考えたのです。私は、心が弱いので、すぐに友達や親にたよつてしまいます。大

人になるということは、先輩や親にたよらず、甘えず自分の力でやっていけるようになることだと思えます。だから、できるものがあつたら、どんどん積極的にやろうと思えます。

自分がこうやって生きていられるのは、家族がいるからだと思えます。また、先生方や先輩方の支えがあるからだと思います。感謝の気持ちを忘れず、この一度しかない人生を大切にしていこうと思います。私をいつも支えてくれる家族や親友を大切にしていきたいです。今では、それが、大人に近づくとということだと思つていきます。

「よさこい」を 始めて

下郷中学校 1年
渡部 健人



「よろしくお願いします。」
礼に始まり、礼に終わる。それがよさこいのルールです。

僕がよさこいを始めたのは、保育所の年中の時でした。兄といっしょに始めました。父がよさこいをやっております。ある練習の日に、一緒に行つたのがきっかけでした。初めて練習している場所に入ったとき、きれいな踊りに目が釘づけになりました。みんなでかけ声を合わせて踊つていて、「かっこいいなあ。」と思つ

たことを覚えていきます。そして、次の練習の日から、踊りの練習を始めました。最初は「自分にもできそう。」と思つていたのですが、やつてみると、なかなか思うようにはできないし、動きもはやいので、覚えるのがとても大変でした。そして、やつと覚え

たと思うと、手をしっかりと伸ばしたり、メリハリをつけたりと、細かいところまで気をつけなければならず、なかなかうまくいきませんでした。でも、兄はどんどんうまくなつ

ていくので、「負けたくない。」という一心で、うまく踊れるように頑張りました。そして、練習の時だけでなく、家でもよさこいの練習をするようになりました。そのおかげで、少しずつきれいな踊りを踊ることができるようになってきました。あ

る日の練習の時に、踊りを踊っていたら、「だいぶうまくなったな。」と言われ、とてもうれしい気持ちになりました。それからは、練習に練習を重ね、自分でも満足できるような

踊りに仕上げることができました。

僕が始めて出た大会は、東日本ジュニア大会という、中学生以下の踊り子たちが出る大会でした。初めての大会だったので、とても緊張しました。ステージに立つと、大勢のお客さんがいたので、「ちゃんと踊れるかなあ。」と不安になりました。踊りが始まると、その緊張は、いつの間にかわくわく感に変わり、楽しんで踊ることができました。月日が経ち、今年で中学一年生になり、



友情の意味

下郷中学校 2年
浅井 竜哉

ました。今では、保育所の時よりも、踊りを覚えるのがはやくなりました。声も出せるようになりました。六月には、北海道で全国大会があります。去年は、ファイナルまでしか

いけなかつたので、今年は絶対優勝したいと思っています。僕は、よさこいを通していろいろなことを学びました。例えば、チームですれちがったら、「お疲れ様で

す。」とあいさつすることや集合時間を守ることや、すばやく行動すること、メリハリをつけることなど、とても大切なことばかりです。これからも、よさこいでいろいろなこと

を学んでいきたいと思っています。そして、お客さんに笑顔になつてもらえるような演舞をしていきたいと思っています。

皆さんは、友情について深く考えたことがありますか？僕は、最近考えるようになりました。中学生になつて、違う小学校出身の同級生と出会い、いろいろな活動を共にすることを通して生まれてきた考えです。その考えを、今から述べたいと思います。

まず、友情という漢字の意味から考えてみます。はじめに、友情の「友」についてです。これは、友達のことを指します。友達は、皆さんにもいますよね？僕にもいます。生きていく中で、心の支えになつてくれます。しかし、支えられるだけでは本当の友達とは言えません。お互いに気を配ったり、相談にのつたりして助け合うのが本当の友達ではないでしょうか。現に、この漢字には「親しむ」「助ける」という意味もあります。親しみをもって共に行動し、助け合えるのが本当の友達だと考えます。次に、友達の「情」についてです。いろいろな考え方があって思いますが、僕は「情熱」という意味だと思

います。情熱とは、何かに対する熱い、もしくは強い気持ちのことで、誰もがもっている感情です。情熱がなければ何をやっても人に認めてもらえません。

しかし、一人でずっと情熱をもち続けるのは、とても難しいことです。そこで、最初に述べた「友情」が出てきます。何かに向かつて一緒に情熱を燃やす友達がいれば、できないと思うこともできる。諦めそうなことも、諦めずに続ける勇気が持てる。そうして、友達と力を合わせて、切磋琢磨しながら何かを成し遂げるのが、本当の友達の意味だと思つています。

小学生のときは、ここまで考えたことがありませんでした。こう考えるようになったのは、中学生になつて、部活動を本格的に始めてからです。

僕は野球部に所属しています。野球は、僕が一番好きなスポーツで、小学校からずっと続けています。しかし、より本格的になつた中学校で

の野球は、走りこみや、いろいろなトレーニングなど、やめたくなくなるくらい辛いこともたくさんありました。そんなとき声をかけあうのが、野球部の仲間たちです。

「辛いけど、これからの大会で活躍することや立派な先輩になることを目指して、一緒に頑張つていこう！」そう言つて励まし合い、日々活動してきました。信頼ある仲間と共に、同じ辛さや喜びを味わい、悩みを共有する。こうして困難を乗り越え、みんなで成功させたことは、友情の「証」となります。その証が多ければ多いほど、友達と強い絆で結ばれていくのです。

小学生のときにくらべ、今は、友達との信頼関係が、より強いと感じています。さらに、違う小学校出身の同級生と出会つたことにより、友情の輪が広がりました。今年はクラス替えがありました。新クラスとして、早くよいスタートが切れるように、話したことがない人にも積極的に声をかけました。こうして、特

定の友達だけでなく、クラスのみんなで協力することで、四月末の校内陸上大会を盛り上げることができました。また、五月の学習旅行では、班で意見を出し合つて行きたいところを決め、大都市でたくさんのお話を学ぶことができました。友達と切磋琢磨しながら物事を成し遂げていく毎日は、心身共に大きく成長する時期にある僕たちにとって、何にも替えがたく、価値のあるものです。

皆さんは、今いる友達と、どんな友情で結ばれていますか？「支える方が多い」「支えられる方が多い」「お互いに支え合っている」この三つでは、ずいぶん違います。また、その友達と、切磋琢磨しながら何かを成し遂げ、共に成長することができていますか？いつも側にいると、あまり意識しないかもしれないですが、ときどき、深く考えてみてはどうでしょうか。改めて友情の大切さや素晴らしいさに気づくかもしれません。そして、その友情は、一生続くでしょう。

大好きな家族



下郷中学校 2年
大竹 紗梨奈

「理想の家族とは、どんな家族ですか？」そう聞かれたら私は、「私の家族です。」と、自信をもって答えます。なぜなら、私は家族が大好きだからです。

私の家は、父、母、十歳と九歳の妹、三歳の弟、私の六人家族です。父と母は、とても仲が良く、私の話を親身になって聞いてくれます。妹たちは、いつも私を笑わせてくれて、いろいろなことを話せます。弟は、私から見ると、とても可愛いです。歳が離れていることもあって、可愛がりすぎるくらいです。私の家族は、全員仲が良く、こんな楽しい家族が私は大好きです。

しかし、そんな私たちでもケンカはたくさんします。主に、姉妹の間ですが、ケンカの原因は、本当に些細なことです。例えば、お互いの物に触ったとか、部屋に入ったとか、とっておいた食べ物を勝手に食べたとか。昨日は、されて平気だったことが、今日はケンカの原因に、と

いうことも珍しくありません。その日の機嫌によるので、女の子同士は難しいものです。

でも、うちの姉妹は仲直りも早いです。ケンカしている間は、もちろんすぐ嫌な気分になり、その日くらいは口をきかないこともあります。翌日には自然に仲直りして、また楽しく話をします。

「今日は、ちよつと言い過ぎたな。」冷静になると、そう思えてくるのです。だから翌日、「ごめんね」とは言わないけれど、いつも通りに話しかけます。そうすれば、もう元通りです。

友達の中には、ケンカを引きずつて、しばらく家族と口をきかないという人もいます。私の家では、そういうことはあまりないので、少しびつくりすると同時に、やはり私の家族は仲がいいんだと思います。私は思います。ケンカをするとならないのでは、全然違うと。ケンカをすると、確かに嫌な気分になるけれど、その分、わかり合えると思うのです。ケンカをしないで、つまり言いたいことを言わないで溜めこむよりも、自分の気持ちを家族にちゃんと伝えた方がいいと思います。それに、ケンカをした方が、相手の気持ちも分かると思います。

このように考えるようになったら、ケンカをしても、あまりイライラしなくなりました。それに、私なぜ家族を大好きなのか、自分の家族をなぜ理想と言えるのかが分かってきました。

中学生という年頃になり、家族との会話が減ったという人もいるかもしれませんが、私は変わらず、家族と何でも話します。家族でリビングに集まって、他愛のないおしゃべりをする時間は、とても楽しいものです。こうやって、私の家族は日頃からコミュニケーションが取れています。ケンカをしても、すぐに仲直りできるのは、日頃のコミュニケーションから、お互いの気持ちをよく

知っているからでしょう。

また、私たち家族は毎年、妹の誕生日に妹の行きたいところへ旅行に行きます。特に、去年行った横浜はとても楽しかったです。私も妹もあまり都会に行ったことがなく、その人の多さに驚きました。夜でも街中がキラキラして、見たことのない景色がたくさん広がっていました。毎年、家族でこういう機会をもち、一緒に色々な物を見たり経験したりすることで、家族の絆がより深まっています。

皆さんの中には、家族のことが好きではないという人もいるかもしれませんが、でも、家族のことをよく考えてみてください。日頃のコミュニケーションを大切にすれば、お互いのことが分かって、よいところも見えてくるのではないのでしょうか。私はこれからも、家族とのコミュニケーションを大切にしながら、家族の好きな部分をもっとたくさん見つけていきたいです。

伝える、それは言葉と心のやりとりです。あなたの言葉は、相手に確実に伝わっていますか？大切な言葉を伝えるチャンス逃していませんか？言葉は、感情や意思を伝える手段として用いられます。だから、言

葉遣いや会話の仕方次第で、相手にうまく伝わらないことがあります。そして、その伝える手段は、多種多様化してきているのです。例えば、電子機器による会話はその一つで、今、私たちの一番身

近となつてきているのがラインです。ディスプレイに表示される音のない声や記号化された感情は、時に誤解を生み、すれ違いを引き起こします。しかし、私たちにとってその音のない会話は、大切なコミュニケーション

の一つとなつています。実際の会話では、言葉を選んでると会話のリズムが崩れ、後には沈黙と気まずさが残ります。しかしライン上では、言葉を選ぶ時間がありません。内容を返せば、会話はきちんと成り立つ



後悔すると いうこと

下郷中学校3年
星 颯太

後悔、それは、あとになつてから自分の行いを悔やむこと。僕は、生まれてきてから、たくさんの失敗や後悔をしてきました。皆さんも、何度か後悔をした経験があるでしょう。小さな後悔を含め、もしかしたら、取り返しのつかないような失敗をしてしまったことがあるかもしれません。しかし、いくら悔やんでも、その時にもどれるわけではありません。では、なぜ人は後悔という感情をもつのでしょうか。

それは、後悔をすることで、また

同じ状況になつた時、後悔をした時の反省をいかせるようにするためではないでしょうか。僕にとつて一番後悔と反省が多いものは部活動です。僕は剣道部に所属しています。剣道には、団体戦があります。団体戦では、五人チームで一人ずつ戦い、その勝敗で、勝ち負けが決まります。一人の結果がチームの勝敗に直接関わってくるのです。これまで自分が勝てなかったために、チームが負けました。試合がありました。そんな時は、その日のうちに、何がいけ

なかつたのかを、考えるようにしています。もちろん、試合に負けたことは悔しいですが、悔しがつているだけでは何も変わりません。それではただ失敗で終わってしまいます。そうならないために、次にいかすために、その日のうちに反省するようになっています。それでも次の試合に勝てるかどうかは分かりません。もしかしたら、次の試合、その次の試合にも負けてしまうことだつてあるかもしれません。だけど、反省すること、前と同じ失敗をくり返さ

ないようにしているのです。僕は、今、中学3年生です。だから、今度の大会は、中学最後の大会になります。大会が終われば、高校入試が待っています。今までの失敗や後悔は、この時のためのもの。ここで、後悔をしても次はないのです。だからこそ今までをしつかり反省し、目標に向かって、一生懸命努力したいと思えます。もう後悔はしたくないから。



伝えると いうこと

下郷中学校3年
星 ひかり

ています。このように、ラインは、実際の会話が苦手だったり、人見知りだったりする人にとっては良い面があります。

しかし将来、就職する時が訪れることでしょう。職場では、必ず人と接しなければなりません。その時、周りの人たちとの関係を上手に保ちながら、分からないうことを聞いたり、自分の意見を伝えたりすることができるといいですか？実際の会話では、感情と感情のぶつかり合いがあるのです。だから、時には関係に溝ができたりにしてしまう、難しいものだと思います。また、実際の会話を上手にしていけないと、社会では通用しないと私は考えます。そしてもう一つ、伝えるということを考えさせら

れた出来事がありました。それは短期間のアメリカ滞在です。国際交流基金という事業の一環で、よさこいチーム郷人の一員として参加しました。そこで目にしたものは、言葉ではないものが伝わる瞬間でした。日本文化の良さや感動が、郷人の気迫ある演舞によつて、国境を越えた人々にも伝わっていくのを実感しました。アメリカの人々に、興味をもち受け入れようとしてくれる心があつたから、言葉がなくてもこなにはつきりと伝わつたのだと思います。伝えるということは、言葉を使う以前に、伝えようとする強い気持ちと受け入れようとする気が大切なのではないかと思えました。こ

れは、日常生活においても同じく言えることだと思えます。今まで、「何でこの人には言っていることが伝わらないんだろう。」と感じたことはありませんか？私には経験がありません。しかし今なら、その相手を理解し受け入れようとする気持ちがある時足りていなかったのだと思うことができます。相手の話をきちんと聞いて理解しようとした上で、自分の意見などを伝える、これが本当の伝える力だと思えます。つまり、話し上手は聞き上手、伝える力は聞く力、ということですね。きちんと相手と向き合つて話を聞くこと、私はまずそこから始めていきたいと思つています。意見の対立が起きた時、ケンカになつてしまった時、言葉だけでは

片付かないことがあります。そんな時は、相手を理解しようとし、向き合おうとすることが大切だと思えます。そうすれば、相手に自分の気持ちを受け入れてもらいながら、正確に伝えるということにつながると思うからです。これから何十年、たくさんの人と出会っていく中で、またこの人と話がしたい、そんな風にならなりたいです。伝える、それは言葉と心のやりとりなのです。そのやりとりの背景には、人の存在があります。伝える力には可能性があり、それを確かなものにするのは自分自身です。私もそんな伝える力のある人になりたい。相手に、確実に、自分の気持ちを伝えるために。